

授業概要

組織心理学は、産業や組織における人の心理学的メカニズムを研究対象とし、組織や産業社会をより良くするために活用しようとする学問である。たとえば、「どうしたら仕事へのモチベーションが高まるのか」、「良いリーダーとはどういう人なのか?」や「仕事のストレスにどう対処すればよいか」などの疑問を探求することで、働く人の心と身体の健康を守ることを目指す。後半は、採用・面接、人事評価、ワーク・ライフバランスなどの組織における人の処遇に関する「人事」に関するテーマを取り扱う。

本講義を通じて、心理学が現実場面における人間関係や行動の理解にどのように活かされているかを学んで欲しい。授業は主に講義形式で行うが、映像視聴やワークも取り入れる。授業内容を興味深いものにするために各履修者の積極的な授業参加を期待する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：組織心理学について
第 2 回	リーダーシップ
第 3 回	フォロワーシップ
第 4 回	ワークモチベーション：仕事への動機付け
第 5 回	組織コミットメント
第 6 回	対人関係のスキル
第 7 回	組織の意思決定
第 8 回	組織内の人間関係とコミュニケーション
第 9 回	人を活かす 1：募集・採用と処遇
第 10 回	人を活かす 2：人事評価
第 11 回	人を活かす 3：キャリア発達と能力開発
第 12 回	人を活かす 4：職場の人間関係
第 13 回	働くことの意味と働かせ方
第 14 回	雇用の多様化とワーク・ライフバランス
第 15 回	総括
第 16 回	定期試験

到達目標

- 組織の中で働く人の管理に関する課題を理解し、自らのワークライフを考えることができる。
- 仕事のなかの問題解決に生かせるように、産業・組織心理学が培ってきた知見を学習する。
- 職場で起きる心理的事象を科学的に理解する力を身につける。

履修上の注意

毎週の講義後にリアクションペーパーの提出を求める。講義に対する質問や意見等を積極的に書くようにして欲しい。また、授業と関係のない私語は厳禁である。私語を含め周囲に迷惑をかけるような行動がみられる場合には、退席を求めることがあることに注意すること。「産業心理学（産業・組織心理学）」と併せて履修することが望ましい。授業内で実施するグループディスカッションに積極的に参加すること。

同時期に開講される産業心理学と同時に受講することが望ましい。

予習・復習

- 配布資料を用いた復習は必ず行うこと。
- 講義で扱った内容と、自分の日々の生活上の出来事との関連を考えることも重要な学びになりうる。

評価方法

- 受講態度（リアクションペーパーを含む）：30%
 - 定期試験：70%
- 上記をもとに総合的に評価する。

テキスト

毎回、講義資料を授業テキストとして配布する。また、参考文献は適宜授業内で紹介する。